〈中学部研修〉

テーマ

美術科における効果的なオンライン授業を探る！

提案者　寝屋川市立点野小学校長
笠　間　康　浩

司　会　河内長野市立東中学校教頭
内　本　年　昭

助言者　大阪教育大学表現活動系美術
准教授
渡　邉　美　香

報告者　河内長野市立長野中学校
山　本　翔　真
摂津市立第三中学校
宣　　昌　大

は　じ　め　に

現在、府内の中学校は常勤の美術科教員が配置されていないところもある。非常勤講師が美術科指導を担う学校が増えてきて、市町村レベルでは美術科教員が集まって研修する機会がないという声も聞く。そんな状況を踏まえ、令和元年度から夏期に中学部研修を実施することになった。この二年間、大阪教育大学で美術教育指導に携わる渡邉准教授に助言をもらいながら研修を実施しており、今年度はコロナ禍でもありオンライン研修を実施することにした。７月末から一カ月足らずの期間で役員や地区責任者経由でメールやＦＡＸで広報し、８月20日（木）に約20名がオンラインで参加した。

実践発表と交流の様子

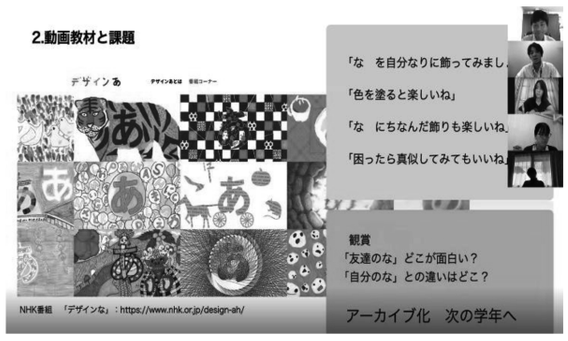
令和２年３月から約３か月の臨時休業を余儀なくされたが、休校中にオンライン教材を生徒に配信した教員２名による実践報告を軸に研修を行った。

河内長野市立長野中学校の山本教諭からは、校内でＩＣＴ担当教員として環境整備から動画配信に至るまで苦労したことや、「実技の説明動画」と「デザインな」について報告があった。

学校では、臨時休校に際してＩＣＴ担当を増員し、学校ホームページを利用した教材動画の配信を行う体制を作った。５教科では休校中の課題とリンクしたものを動画配信、音楽科では校歌紹介、美術科ではモダンテクニックの紹介動画を配信した。配信方法は You Tubeの限定公開とし、事前に各家庭にインターネット環境の調査を行い、QRコードとパスワードを配付した。インターネット環境のない家庭の生徒には、学校に登校して視聴できるように配慮した。

モダンテクニックの説明動画について、参加教員から「実技手法がわかりやすい」、「見やすいアングルや手順、内容など、動画作成にかける時間と労力がすごい」と賛辞が述べられた。技法としての知識より、絵具の動きを重点的に視覚化することに留意して作られており、生徒たちが「考えて工夫する」部分については説明し過ぎないように配慮されていた。

「デザインな」については、ＮＨＫ番組「デザインあ」にあやかり「デザインな（長野中）」という課題にしていることもあり、「デザインあ」の公式サイトで一般公募の作品がスライドショーで閲覧できることを生徒たちに情報提供した。課題提示が端的で「考える余地」を残しているため、ほとんどの生徒が自ら考えて楽しみながら制作したようである。生徒の完成作品からは、豊かな発想が感じ取れるものが多く見られた。



山本教諭の実践発表時の一場面

摂津市立第三中学校の宣教諭からは、中学１年生対象の「美術室紹介動画」と中学３年生対象の「美の発見レポート」について報告があった。

美術室紹介動画は、中学１年生への美術科のオリエンテーション動画として、生徒たちにまず自分たちが学ぶ場である美術室と、美術という教科について知ってもらう意図で作られた。美術室の中をカメラが一周していくので、室内のどこに何があるかをワクワクしながら知ることができる内容で、生徒たちの美術への興味関心を高めるものであった。

「美の発見レポート」は、中学３年生が１年生の頃から長期休業中に取り組んでいるシリーズもので、今回は「五感で感じる美の発見レポート」を課した。このレポートは、身の回りのものを五感で感じ、そこから感じ取った「これが好き」、「自分として美しいと思う」と言えるものを写真やイラスト、雑誌等の切り抜きなどで構成し、それに解説をつけるものである。生徒たちの提出レポートをスライドショー形式の動画にして配信することで、生徒一人ひとりが自分の鑑賞体験と他者の視点を重ね、「美しいもの」に気づき、見方を広げたり深めたりしている様子が感じ取れる内容であった。

参加教員からは、生徒へのアプローチの仕方や課題設定について参考にしたいという意見や、宣先生の美術に対する考え方や想いに感心したという意見があった。ＩＣＴ機器の利用やオンデマンド、オンラインによる授業はあくまでも“手段”であって、手段が目的化しないよう、“学びのねらい”を大切にしなければいけないというメッセージが伝わってきた。

宣教諭の実践発表時の一場面

お　わ　り　に

オンライン研修という方法について、参加者には好評であった。２名の実践報告の合間には、ブレークアウトセッションで４人程度のグループで意見交流する時間を設け、その後に全体で意見交流を行うという形式をとった。研修後のアンケートには、「こんなにも参加者の皆さんのお顔をしっかりと拝見できた研修はなかった」という感想もあり、時にはこういう研修方法も活用しながら、時間と場所を越えて教員の横のつながりを広げることが大事であると感じた。

研修の終末では、渡邉准教授から指導助言をいただいた。ＩＣＴ機器を活用する意味や、遠隔でのオンライン授業について、「同期型」と「非同期型」で学習のねらいや効果が変わってくること、オンライン授業の特徴と美術科としての有効なアプローチについてなどを教示していただいた。

美術科においては、授業の導入やふりかえりの場面では、オンラインやデジタル化の有効活用が容易にイメージできる。しかしながら、授業の制作場面では、やはり同じ空間において対面で“創造的技能”を育む方が有効と考えられる。オンライン授業と対面授業を組み合わせた“ハイブリット授業”についても、今後研究していく必要があるという命題をもらって研修を終えた。